

平成23年度継続事業に関する継続評価書

研究機関 : (株)横須賀テレコムリサーチパーク、日本電気(株)
研究開発課題 : 高精度位置認識技術の研究開発
研究開発期間 : 平成22～23年度
代表研究責任者 : 坂村 健

■ 総合評価 : 適

(総論)

我が国の社会基盤構築に資する先端技術課題であり、継続的に研究を推進する必要がある。

事業開始から短期間にも関わらず着実に事業を推進していることは評価できる。

(コメント)

- 世界的にも最先端のICTの研究開発として活発に研究がすすめられている。現在我が国に存在する先端的技術集団のプロジェクトとして、期待するところ大である。世界をリードする成果を期待するとともに、日本のこの分野の技術発展の牽引者となることを期待する。
- システム全体としての精度目標達成、多様な環境下での低コスト化、成果の事業化を達成すべく、各要素技術の達成目標を規定し、達成レベルを定量的に評価して、計画全体の調整にフィードバックすることが望まれる。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 6点

(総論)

開発開始から短期間にも拘わらず着実に開発を推進していることは評価できる。

(コメント)

- 事業開始から短期間に、要素技術を着実に研究開発している。
- システム全体としての精度目標達成、多様な環境下での低コスト化、成果の事業化を達成すべく、各要素技術の達成目標を規定し、達成レベルを定量的に評価して、計画全体の調整にフィードバックすることが望まれる。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 6点

(総論)

当初計画に即しており、妥当である。

(コメント)

- 予算計画書に則り、有効に、効率的かつ適正に執行されている。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 6点

(総論)

実行可能であり有効かつ効率的な計画である。

(コメント)

- 22年度からの継続課題であり、実績を基に23年度へ向けて適正な計画がなされている。
- スムーズなインドアアウトドアのシームレス測位については準天頂衛星をどのように生かすのか実環境に即したシステムの開発が望ましい。
- 位置特定の各要素技術について、克服すべき課題は多い。最終的にチャンピオンシップデータの提示に終わるのではなく、問題点の摘出及びその公開により、次年度以降の技術開発の発展につながるようなデータを残して欲しい。
- 特許の出願、学会発表など成果を広く公表し、我が国のこの分野の研究の活性化に資することを強く望む。
- 事業戦略、産業戦略が要請する、要素技術に対する要求条件を明確にし、これを実現するべく、実施計画を詳細化することが望まれる。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 6点

(総論)

有効かつ効率的な予算計画が組まれており、積算額も妥当である。

(コメント)

- 妥当な予算計画が提示されている。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 6点

(総論)

適切な実施体制が組み立てられており、計画通りの事業進捗が見込まれる。

(コメント)

- 受託者の実績から、22年度の継続として、総論のような評価を行った。